別所だより

横浜市立別所小学校　　令和５年 12 月 21 日発行

「ちょっと やってみよう」

校長　　大島　宏二

残り１枚となった壁掛けカレンダーの日付が後半に差しかかり、年賀はがきの受付が始まったというニュースを耳にすると、いよいよ年末が近付いてきたことを実感します。

１１月末に本校では、一昨年の東京パラリンピックに車椅子バドミントンの種目で出場された小倉理恵選手にお越しいただく機会に恵まれました。横浜市は、児童生徒のスポーツを楽しむ機会の充実を図るために、「パラリンピアン等による学校訪問事業」を行っており、その事業に手を挙げたことで実現したものです。

日本選手権の優勝や世界選手権でもメダリストになられた小倉選手からは、生まれつきの両下肢機能障害での小学校生活の様子や高校生で初めて車椅子バドミントンを経験したこと、友達に誘われて軽い気持ちで試合に出たものの、負けた悔しさが上手くなりたいというきっかけにつながったことなど、競技を始めた経緯やパラリンピックを通じて得た経験などをお話いただきました。

この貴重な体験談や実技を目の当たりにした子どもたちから、小倉選手に宛てたお礼の手紙に次のような感想が寄せられました。**「夢をあきらめないこと、１日１日を大切にすること、他にもたくさんありますが、この２つが特に心に残りました。」「オリンピックやパラリンピックなどの選手の方々は、中学生や高校生の年令から始めると思っていました。でも、小倉さんのようにものすごくがんばれば、なりたいものにたどりつけるのだと思いました。これからは、不可能だと思ってもあきらめずにやってみようと思います。」「良い結果が出なくても、少しずつ努力を積み重ねていくことで、夢に向かって進んでいけることを小倉選手の話を通して知ることができました。自分もこの先、よい結果にならなかったとしても、あきらめず努力を積み重ねていきたいと思いました。車椅子を動かしながらバドミントンをすることができるなんて驚きました。」**

今回は、体育館の広さの関係で４・５・６年生の子どもたちを対象に実施をしましたが、どの学年の子どもたちの心にも響いたようです。私も思わず書き留めた言葉がいくつもありますが、その中の１つが“**「ちょっとやってみよう」が夢や目標につながっていく**”です。何がきっかけとなって、その後の自分の人生が変わっていくのかは、誰にも分かりません。だからこそ、ちょっとやってみようかなと心が動いたときは、自分の可能性を広げるためにも、ためらわずに行動に移していきたいものです。この年末年始は、“ちょっとやってみよう”を始めるよい機会です。

今年も別所小学校へのご理解とご支援に感謝申し上げます。来年もよろしくお願いいたします。